

「令和7年度全国学力・学習状況調査」新城市の状況について

新城市教育委員会

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、その結果を今後の教育活動に役立てていくことを目的としています。令和7年度の結果から分かる児童生徒の状況を報告します。

1 調査概要

- (1) 調査実施日 令和7年4月17日(木)
- (2) 調査対象 市内小学6年生、中学3年生
- (3) 調査事項 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
質問紙調査(学習・生活)

2 各教科の調査の結果(全国の平均正答率との比較)

(1) 小学校

	調査の内容・領域
国語	<p>全国の平均正答率と比較し、同等程度もしくはやや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える力。 ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。 ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力。 <p>全国の平均正答率と比較し、弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力。 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力。
算数	<p>全国の平均正答率と比較し、同等程度もしくはやや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する力。 ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する力。 ・角の大きさについて理解する力。 ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力。 ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフから、項目間の関係を読み取る力。 ・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ力。 ・台形の意味や性質について理解する力。 ・小数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する力。

	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉える力。 ・異分母の分数の加法の計算をする力。 ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す力。
理科	<p>全国の平均正答率と比較し、同等程度もしくはやや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現する力。 ・電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることを理解する力。 ・乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関することについて理解する力。 ・ヘチマの花のつくりや受粉について理解する力。 ・発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する力。 ・レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現する力。 ・水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現する力。 ・氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解する力。

(2) 中学校

問題調査の内容・領域	
国語	<p>全国の平均正答率と比較し、優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える力。 ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力。 ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力。 ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力。 ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく使う力。
	<p>全国の平均正答率と比較し、優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力。 ・多角形の外角の意味を理解する力。 ・必ず起こる事柄の確率について理解する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力。 ・事象に即して、グラフから必要な情報を読み取る力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p>
	<p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素数の意味を理解する力。
理科	<p>全国の平均正答率と比較し、優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現する力。 ・ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識を概念として理解する力。 ・気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識を概念として理解する力。 ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表す力。 ・塩素の元素記号を問うことで、元素を記号であらわすことに関する知識及び技能を身に付ける力。 ・仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予測する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明する力。 ・分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識を概念として理解する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈する力。 ・気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈する力。

3 生活状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、全国と比べてやや上回る。
友達関係に満足していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べやや上回る。小学生はやや下回る。

4 学習状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
前年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒は、全国と比べ上回る。

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べてやや上回り、小学生は下回る。
算数・数学の授業内容はよく分かりますか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べてやや上回り、小学生はやや下回る。
理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べてやや上回り、小学生はやや下回る。

5 調査結果の分析と、今後の指導改善等の取り組み

本年度の学力学習状況調査の結果から、昨年度の調査に引き続き、多くの児童生徒は規則正しい生活を送っていることが確認できた。

小学校では「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあるか」という質問に関して、前向きな回答をしている児童が全国と比較して上回り、中学校では下回っていた。また、「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあったか」という質問に関して、前向きな回答をしている児童生徒が全国と比較して上回っていた。このことから、授業だけでなく、放課後や休日において、新城市のよさである「人、自然、もの」を生かした取組を学校、地域、保護者が連携、協働して行い、多くの大人が子どもたちに関わり、見守っていく環境づくりに努めていく。

学習状況の調査より、GIGA スクール端末が、児童生徒にとって必要な情報を収集し、学習活動を充実させるツールとして、定着してきていることが分かる。一方で、情報を整理したり、文書やプレゼンテーションを作成したりすることに苦手意識をもっている。今後は、調べるためのツールだけでなく、GIGA スクール端末を活用して、自分の考えや意見を発信し、共有することで、話し合い活動を充実させるためのツールとして活用するなど、協働的な学びにつながるように、これまで以上に GIGA スクール端末の活用方法を研究し、実践していく。

小学校、中学校ともに、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という質問に関して、前向きな回答している児童生徒が全国と比較して下回っていた。教師主導の授業ではなく、児童生徒が学習の見通しを立てたり、自己調整したりしながら探究したくなるような学習課題を自ら設定できるような導入の工夫をする必要である。今後も、児童生徒が学びにのめり込み、児童生徒の思考に沿った授業を目指し、授業改善を図っていく。

また、「自分には、よいところがあるか」「将来の夢や目標をもっているか」という質問に関して、前向きな回答している児童生徒の割合が全国と比較して下回っていることが気がかりである。児童生徒の自己肯定感が低く、自分のよさに気づいていない子もいる。今後も、一人一人のよさを認めながら、将来を見据えて、児童生徒に寄り添った支援を心掛け、児童生徒が目標をもって生活できる学校づくりに努めていく。